

AI アドバイス機能（実行例: 目標設定のタイミング）

※ 【 】内は、AI アドバイス時の選択項目: AI アドバイス方式

1. 個別目標(当期のみ): 当期の目標(本人欄)を ChatGPT の入力に設定
2. 個別目標(前期参照): 当期の目標(本人欄)と前期の目標(本人欄)・前期の結果(本人欄)を入力に設定
3. 全個別目標の総合評価: 当期のすべての個別目標の目標(本人欄)を ChatGPT の入力に設定し、包括的なアドバイスを求める。
4. 総合評価(前期参照): 当期のすべての個別目標の目標(本人欄)と前期のすべての目標(本人欄)・前期のすべての結果(本人欄)を ChatGPT の入力に設定し、包括的なアドバイスを求める。

I. 2025 年度上期の目標管理(画面 G61 目標面談シート) 本人: 赤井二郎 (ログイン利用者)

※ 目標設定時の本人への AI アドバイス ※

1. 1 『個別目標欄』へのアドバイス

1. 1. 1 入力データ: 個別目標1

・当期の目標

タイトル: Ruby のレベルを上げる

ジャンル: 技術力(専門知識) 項番: 10 優先順位: 1

アクションプラン:

Ruby チュートリアル講座を 6 月に受講する。

講座で習うことを実戦で試す。週 1 回程度実行する。

結果と自己評価 : (入力なし)

・前期の目標と結果

タイトル: Ruby のレベル向上

ジャンル: 技術力(専門知識) 項番: 10 優先順位: 0

アクションプラン:

既存の Ruby プログラムを動作確認する(週1回)

先輩に、毎回質問をまとめて行う。

結果と自己評価 :

Ruby プログラムの動作確認はできたが、先輩に質問の資料をまとめていじすることはできなかった。

★chatGPT アドバイス★【個別目標(当期のみ)】

赤井さんの目標は明確で実行計画も具体的ですね。改善点としては以下の 3 点をおすすめします。

- 具体的な目標レベル設定: 例えば「Ruby の基本文法マスター」や「Rails の応用開発ができる」など、達成すべきレベルを明示すると進捗管理がしやすくなります。
- 継続的な学習計画: 6 月の講座終了後も、月に〇回のペースで実践課題や小さなプロジェクトに挑戦するなど、学習の持続性を意識しましょう。
- 効果測定の方法: 例えば、コードレビューやテスト問題を活用し、自分の理解度を定期的に評価し、必要に応じて学習内容を調整すると良いです。

★chatGPT アドバイス★【個別目標(前期参照)】

赤井さん、目標に向かって着実に努力されている点は評価します。ただ、アクションプランに関しては、「習うことを実戦で

試す」だけではなく、具体的な課題や小さな目標を設定し、進捗とアウトプットを振り返る仕組みも取り入れるべきです。また、前の期の自己評価を見ると、計画と実行にギャップがあったようです。今後は、学習内容を日々の業務や小さなプロジェクトに積極的に活用し、質問を整理しやすい環境を整える工夫も必要です。心理的安全性を保ちながら、失敗や質問を恐れず、着実な成長を目指してください。それが、真の技術力向上につながります。

1. 1. 2 入力データ:個別目標2

・当期の目標

タイトル:A プロジェクトの進捗管理

ジャンル:プロジェクト 項番:20 優先順位:2

アクションプラン:

毎週月曜日に進捗会議を開催し、遅れに対する対策を取る。

結果と自己評価 : (入力なし)

・前期の目標と結果

タイトル:A プロジェクトの進捗管理

ジャンル:(なし) 項番:20 優先順位:0

アクションプラン:

毎週月曜日の進捗会議で、課題の整理と課題の担当者およびサポート役を決め、課題が持ち越さないようにする。

結果と自己評価 :

なかなか忙しくて実行できなかった

★chatGPT アドバイス★【個別目標(当期のみ)】

赤井さんの目標は具体的で良いですが、改善点として以下を提案します。

1. 進捗管理の指標を具体的に設定し、数値化して進捗状況を把握できるようにしましょう。
2. 会議だけでなく、日々の進捗確認やタスク管理ツールの活用も取り入れると、柔軟な対応が可能です。
3. タスクの優先順位付けやリスク予測も計画に盛り込み、遅れ防止の具体策を検討してください。

★chatGPT アドバイス★【個別目標(前期参照)】

赤井さん、進捗管理のアクションプランは適切ですが、「忙しくて実行できなかった」との自己評価は無責任に映ります。これは改善点を明確にし、実現可能な範囲を再評価する必要があります。進捗会議は形式だけでなく、具体的なアクションアイテムに落とし込み、担当者のモチベーションや声を聞く場にしましょう。心理的安全性を考慮し、メンバーが意見を出しやすい雰囲気作りも欠かさないこと。失敗を責めるのではなく、本質的な阻害要因を分析し、「やりやすさ」を追求した仕組み作りに努めてください。継続的なコミュニケーションと振り返りを通じて、確実に改善を図る姿勢が最も重要です。

1. 2 『総合評価欄』へのアドバイス（個別目標1と個別目標2に対する包括的なアドバイス）

※ 入力データはすべて『個別目標欄』と同じである。

★chatGPT アドバイス★【全個別目標の総合評価】

赤井さんの目標は明確で具体的ですが、より成果を出すために以下の改善点をご提案します。

- 具体的なスキル向上測定基準を設定しましょう。例:チュートリアル完了後の実践テストや理解度自己評価を行い、習熟度を明確に把握します。

- 期限だけでなく中間評価ポイントも設けて、進捗状況を定期的に見直す仕組みを作ると良いです。たとえば毎月の振り返りにより目標調整を行います。
- プロジェクト管理については週次進捗会議の内容だけでなく、達成度や課題の記録、次のアクションを明文化し、改善サイクルを強化しましょう。

これらを取り入れると、より具体的な成果や振り返りが行え、目標達成に繋がります。

★chatGPT アドバイス★ 【全個別目標の総合評価(前期参照)】

赤井さんの目標は具体的で意欲的ですが、いくつか改善点があります。

- 具体性と達成基準の設定: 第1目標のプランは習得範囲や目標達成の具体的な基準を明確にしましょう。例えば、「3つの実践的な課題を完成させる」など具体的な成果を設定すると、進捗把握がしやすくなります。
- 計画と時間管理の見直し: 第2目標は忙しさのため実行できなかったとのことなので、会議の頻度や内容の見直し、また事前準備やサポート体制の強化を検討しましょう。タスクを細分化し、無理のないスケジュールに調整すると継続しやすくなります。
- 振り返りと改善の仕組みを導入: どちらの目標も、定期的な振り返りを設けることで、進行状況や課題点を早期に把握できます。特に「できなかった理由」を分析し、次回に生かす仕組みを作ることが重要です。

II. 2025 年度上期の目標管理(画面 G61 目標面談シート) 面談者:黒川五子 (ログイン利用者)

※ 目標設定時の面談者への AI アドバイス ※

※ 入力データは前の事例と同じ(本人:赤井二郎) ※

2.1 『個別目標欄』へのアドバイス

2.1.1 入力データ:個別目標1

・当期の目標

タイトル:Ruby のレベルを上げる

ジャンル:技術力(専門知識) 項番:10 優先順位:1

アクションプラン:

Ruby チュートリアル講座を6月に受講する。

講座で習うことを実戦で試す。週1回程度実行する。

結果と自己評価 : (入力なし)

・前期の目標

タイトル:Ruby のレベル向上

ジャンル:技術力(専門知識) 項番:10 優先順位:0

アクションプラン:

既存の Ruby プログラムを動作確認する(週1回)

先輩に、毎回質問をまとめて行う。

結果と自己評価 :

Ruby プログラムの動作確認はできたが、先輩に質問の資料をまとめていじすることはできなかった。

★chatGPT アドバイス★ 【個別目標(当期のみ)】

赤井さん、目標ははっきりしていますが、具体性と継続性にもう少し工夫が必要です。Ruby の技術向上は一朝一夕にはいきません。講座受講は良い一歩ですが、その後の実践と振り返りを習慣化し、エラーや躓きも積極的に共有する環境を

作ることが重要です。心理的安全性を考慮し、失敗や疑問も遠慮なく話せる場づくりを意識しましょう。週 1 の実習も良いペースですが、少しでもトピックを広げて、異なる課題や問題に挑戦することもおすすめします。着実なステップを踏みつつ、自分の成長をじっくり認識しながら進めてください。

★chatGPT アドバイス★【個別目標(前期参照)】

赤井さん、目標は明確で良いですが、単なる講座受講だけでは実践に結びつきにくいいため、もう一段階具体的な行動計画と効果測定を設けると良いでしょう。たとえば、「講座修了後の定期的なコードレビューやペアプログラミングの機会を設ける」「実践例をリポジトリに蓄積し、振り返りを行う」といった具体的なステップを追加してください。心理的安全性を確保するために、失敗を恐れず質問やフィードバックがしやすい環境の構築も意識しましょう。成長には継続的な振り返りと改善が不可欠であることを念頭に置き、周囲と良いコミュニケーションを取りながら、一段ずつ積み重ねていきましょう。

2. 1. 2 入力データ:個別目標2

・当期の目標

タイトル:A プロジェクトの進捗管理

ジャンル:プロジェクト 項番:20 優先順位:2

アクションプラン:

毎週月曜日に進捗会議を開催し、遅れに対する対策を取る。

結果と自己評価 : (入力なし)

・前期の目標

タイトル:A プロジェクトの進捗管理

ジャンル:(なし) 項番:20 優先順位:0

アクションプラン:

毎週月曜日の進捗会議で、課題の整理と課題の担当者およびサポート役を決め、課題が持ち越さないようにする。

結果と自己評価 :

なかなか忙しくて実行できなかった

★chatGPT アドバイス★【個別目標(当期のみ)】

赤井さん、進捗管理の基本を押さえている点は評価します。ただし、毎週の進捗会議だけでは情報共有の質や問題の深掘りが不十分になる恐れがあります。心理的安全性の観点からも、メンバーが遠慮なく課題や失敗を共有できる雰囲気作りが重要です。会議の際には、「失敗や遅れも学びの機会」と捉え、積極的に発言しやすい環境を意識してください。また、遅れの原因分析だけでなく、今後の改善策や個々の貢献も明確にすることが、チーム全体の意識向上につながります。継続的なフォローアップと、関係者全員の理解と協力を促す姿勢を忘れずに、進捗管理を進化させていきましょう。

★chatGPT アドバイス★【個別目標(前期参照)】

赤井さん、目標内容は具体的で良いのですが、更に一步踏み込んで進捗の把握と対策を堅実に行う必要があります。進捗会議は重要ですが、参加者が安心して意見を出せる環境を整えることも忘れずに。例えば、遅れの原因だけでなく成功例も共有し、ポジティブな側面も取り入れることで心理的安全性が高まります。また、遅れ対策については具体的なアクションと責任者を明確にし、進捗状況を可視化できるツールの導入も検討してください。常に進捗の透明性とチームの結束を意識し、ただ管理するのではなく、メンバーの意見を引き出し協力を促す姿勢も大切です。あなたのリーダーシップ次第で、より良い結果と信頼関係を築くことができるでしょう。

2. 2 『総合評価欄』へのアドバイス (個別目標1と個別目標2に対する包括的なアドバイス)

★chatGPT アドバイス★【全個別目標の総合評価】

赤井さんの目標は具体的で意欲的ですが、効果的な成長とチームの信頼を築くために、以下の点を意識してください。

- ・技術習得の際は、自分一人で抱え込まず、仲間や上司に進捗や疑問点を適宜共有し、フィードバックを得ることを忘れずに。心理的安全性を高めるコミュニケーションが成長を促します。
- ・進捗会議や学習の振り返りは、問題点だけでなく成功例も積極的に共有し、ポジティブな雰囲気を作ること。自分も他者も安心して意見を発信できる環境づくりに努めてください。
- ・計画通りに進めることは重要ですが、柔軟性も持ち合わせてください。都合や状況の変化に応じ、適宜アクションプランや目標の見直しを検討し、無理なく継続できる環境を整えることも成長の一環です。

★chatGPT アドバイス★【全個別目標の総合評価(前期参照)】

赤井さんの目標は明確で意欲的ですが、継続と実践の質を高める必要があります。特に技術学習に関しては、自分の成長過程を振り返りながら小さな成功体験を積むことが重要です。プロジェクト管理は時間確保の工夫とチーム内の情報共有の一層の徹底を図りましょう。心理的安全性を考慮し、自己評価や課題も素直に振り返ることで改善策を見出しやすくなります。

- ・定期的な進捗確認と振り返りを組み込み、自己学習とチーム運営の改善点を明確にしましょう。
- ・小さな成果や改善点を共有し、自己承認と他者からのフィードバックを促進してください。
- ・時間管理と優先順位付けを徹底し、忙しさに流されず継続できる仕組み作りを意識しましょう。

以 上